



# 3

## 「言えなかった」「ありがとう」「を伝えよう」を伝えよう 新しい指導を考える会

使用教材：「今、わたしは、ぼくは」（六年下）

### 1 はじめに

目前に迫る卒業。卒業とは「ひとり立ち」すること。そのためにどれだけ保護者の方にお世話になったか。時に口やかましい小言、おせっかい。その裏側にある願いを思い描けるか。それを思い描けることが、成長した証。それに対し感謝できることが成長した証。言えなかった「ありがとう」を伝えよう。

まもなく小学校を巣立っていく六年の三期。子どもたちには、これまで育ててくれた保護者に感謝の気持ちを伝えさせ、それを保護者にも知ってもらいたい。そこで、小学校最後の参観日で、保護者に感謝の思いを伝える一分間スピーチを設定した。

しかし、思春期にさしかかる彼らには、恥ずかしさもある。そこで、単元の初めに担任として冒頭の言葉を伝え、また、堂々

と述べるからこそ、成長の証という意識をもたせる。

### 2 指導計画（全六時間）

#### 第一時

三月にある最後の参観日に「一分間スピーチ大会（言えなかった『ありがとう』を伝えよう）」を行うことを決める。ここで、相手意識、目的意識をもたせる。

#### 第二時

自分が伝えてみたいことをマッピングして、発想を広げる。

#### 第三時

マッピングしたもののから、ひとつ題材を選び、内容をふくらませる。

#### 第四時

ペアになり、構成したスピーチを発表し合い、相互評価をしながら、加除修正する。項目をつなぐ接続語、文末を考える。

#### 第五時

ペアになり、視線、声量、速度、間、表

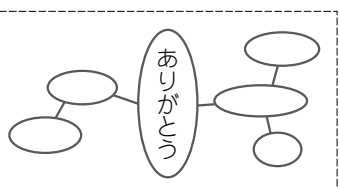
情の観点で、相互評価しながら、練習し、次時の発表に備える。

第六時  
参観日に保護者の方に向けてスピーチ大会を行い、感想をもらう。

### 3 指導の実際

#### ■第二時の様子から

子どもたちは、入学してから今まで、保護者に感謝する場面が数多くあっただろう。それをまず思い出させ、下のように思いついたことをマッピングさせる。



できるだけ子どもたちがたくさん書けるように、次のような観点を示しながら指導する。

- ①自分が印象に残っているものから、まず書いていく。
- ②学年を決めておき、学年別に書いていく。

#### ■第四時の様子から

「ありがとう」の気持ちが一番伝わる順序を改めて考え、項目の横に話す順をメモする。表の一番上と一番下、また、項目間をつなぐ言葉や文末表現を考え、そして、この順序でこの言い方で保護者には伝わるかどうかを相互評価していく。

次時の音声面での相互評価も必要だが、メモ等を参照しつつ行うスピーチでは、この段階で自然な流れができていくことが肝心である。

### 4 おわりに

最後の参観日では、子どもたち一人ひとりが、しっかりと保護者に向けてスピーチを行うことができた。相手・目的意識が明確にあり、話す内容にも構成にも自信をもっていたことがその理由だと思ふ。

「話すこと・聞くこと」領域の授業が充実するか否かは、子どもがその活動に対して意味を感じ、どれだけ意欲を示すかにかかっていると思う。

意欲のある、目的を明確にした言語活動を仕組み、その中で自分を見つめ、心も耕していきたいと思う。

- ③困っていたとき、悲しかったときなど自分の感情に合わせて書いていく。
  - ④出来事に合わせて、「いつ、どこで、誰と、なぜ、どのように、そのときの会話」など、具体的なことも書き込んでいく。
- また、書いている児童数名に途中で発表させたり、ペアで情報交換させたりする。自由にマップを書くことで発想が活性化する子もいれば、視点を与えられることで発想が活性化する子もいる。また、具体的なシーンを示唆することで書ける子もいる。子どもたちの思考のスタイルに対応して進める。

#### ■第三時の様子から

前時でマップに書き広げたことを整理する。さらに、そのときの保護者の気持ちはどうだったか想像し、そのときの自分の気持ちはどうだったか、それを比較して今どう思うのか、この三つを加えさせる。

保護者の行為の裏側にある思いを浮かべ、そのときの自分の気持ちと比較する。そして、感謝につながれることは、保護者に依存している気持ちから一歩成長し、自身の思考の広がりを出すものである。このこ

▼ワークシート

時	
場所	
人物	
どんなこと	
どのように	
どうなった	
なぜ	
会話	
自分の感情	
想像する保護者の感情と理由	
比べて思うこと	